

Journal of Regional Development Studies

Vol.19, March 2016

Contents

[Contributed Papers for the Special Edition]	
Special Issue on Volunteer Activities of University Students 2	
Introduction	Susumu NEJIMA 1
Toyo University Student Volunteer Center's Activities in Kesennuma, Miyagi Prefecture Part 2	Susumu NEJIMA 2
Students Oriented Group Activities on a Typhoon-Stricken Area: Aiming at Self-Support of a Fishermen's Village on Leyte Island	Yuko KOBAYAKAWA 13
Study Support for International Children by Toyo Students	Takayuki SHIBATA 26
[Contributed Papers]	
The Relation between the Global Environment Model and "Global Peace and Global Prosperous"	Makoto IKEDA 37
Taiji and Dolphins: Cultural Relativism or Moral Realism?	Andrew OBERG 57
Promoting CLIL in Higher Education in Japan	Anita KOIKE 69
A Study on the Success of the TV Drama Downton Abbey — the British Peerage as the Tourist Attraction	Kaoru SATO 77
The Invention of Aid: A Case Study of the Japanese NGO Project in Emergency Programme, in Turkana, Kenya	Gaku MORIGUCHI 91
On the Concept of the Written Constitutional Law	Yoicki NAKAJIMA 107
A Study on the Happiness Based on the International Environment Planning and Euphoria Evaluated by Students of the Toyo University	Hajime YOSHIDA 117
Negotiation and Cooperative Action for Efficient Water Allocation —Analysis by Applying 2x2 Game Theory—	Kenji YOSHINAGA 127
[Technical Papers]	
Japanese History as Maritime Perspective1	Yoshimitu NISHIKAWA 157
A Study Note of "Watarase Examination Quiz" and it's Expectation	Hajime NAGAHAMA 177

Published by
The Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

国際地域学研究

第19号
2016年3月

【特集論文】	
特集：大学生によるボランティア活動2	
大学生によるボランティア活動2 インTRODakション	子島 進 1
気仙沼における東洋大学学生ボランティアセンターの支援活動 その2	子島 進 2
学生団体の被災地支援活動からの学び —レイテ島漁村の自立支援を目指して—	小早川 裕子 13
外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援	柴田 隆行 26
【一般論文】	
地球環境モデルと平和と繁栄の関係	池田 誠 37
太地町とイルカ漁問題：文化相対主義か道徳的実在論か	オバーク・アンドリュウ 57
Promoting CLIL in Higher Education in Japan	Anita KOIKE 69
ドラマ『ダウントン・アビー』の成功—英国貴族という観光資源	佐藤 郁 77
創られる援助 ある日本のNGOの緊急支援プロジェクトとケニア、トゥルカナ地域での状況	森口 岳 91
成文憲法という思想 —米国憲法制定過程を中心に—	仲島 陽一 107
国際環境計画からみた幸福度と学生の幸福感についての一考察	吉田 肇 117
Negotiation and Cooperative Action for Efficient Water Allocation —Analysis by Applying 2x2 Game Theory—	吉永 健治 127
【研究ノート】	
海民の日本史1	西川 吉光 157
「わたらせ検定」の実施と今後の展開	長濱 元 177

東洋大学国際地域学部



東洋大学

国際地域学研究

第19号

東洋大学国際地域学部

特集：大学生によるボランティア活動2

イントロダクション

子 島 進*

『国際地域学研究』第18号に引き続き、今号でも大学生によるボランティア活動の特集する。東洋大生の活動を本学教員がまとめるという形である。

1 本目の「気仙沼における東洋大学学生ボランティアセンターの支援活動 その2」（子島進）は、18号の特集でもとりあげた学ボラの被災地支援活動の続編である。今回は、2015年8月に気仙沼を訪れ、学ボラの主要な受け入れ先で行ったインタビュー調査をまとめている。この作業を通して、東洋大生による活動の意義と地域住民の期待が浮かび上がってきた。

2013年11月、フィリピンのレイテ島をスーパー台風ヨランダが襲った。2本目の「学生団体の被災地支援活動からの学び－レイテ島漁村の自立支援を目指して－」は、その尋常ではない被害状況を受けて立ち上がった学生主体の支援団体による活動を、大きく3つの要素から考察している。一つは、学生団体が開催した3つのチャリティー・イベントの成功から次第に規模が縮小していく過程とその葛藤、二つ目は、台風で被災したレイテ島の漁村における支援活動と学びについて、そして、三つ目は、支援活動の課題と今後についてである。

3本目の「外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援」（柴田隆行）は、SPIRITの活動を取り上げている。これは2009年に東洋大で始まった活動であり、中国、フィリピン、ベトナムなどからの参加児童・生徒を学生たちが支援してきた。外国にルーツを持つ子どもたちに対して、大学生が「大学」という場所で、「教科学習と文化コミュニケーション」という手段を用いて、日本語の「読む・書く・聞く・話す」力の習得を支援することを目的としている。

『国際地域学研究』を媒体として、これまでに論じてきた「大学生のボランティア活動」であるが、その広がりや多様化を実感できるようになってきた。今後は、内容のさらなるブラッシュアップを図り、論文集にまとめることを目指したい。

* 東洋大学国際地域学部：Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

東洋大学国際地域学部国際地域学科紀要 編集規定

第1条（目的）

東洋大学国際地域学部紀要『国際地域学研究』（以下「紀要」という）は、国際地域学部の教育と研究を促進し、教員の研究成果発表の場として、さらに「国際地域学」のディシプリン形成とその発展に寄与することを目的とし、関連の論文、研究ノート、書評、研究展望等を掲載発表する。

第2条（投稿資格）

「紀要」に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 国際地域学部の専任教員
- (2) 国際地域学部の非常勤講師
- (3) その他「紀要」編集委員会が適当と認めた者

第3条（申込みと締切）

執筆申込みと締切期限は、年1回発行の場合は次の各号のとおりとし、年2回発行の場合は、その都度別に定める。

- (1) 執筆計画を把握するため、別に定める「紀要執筆計画アンケート」を7月末日までに集める。
- (2) 原稿提出は、12月1日までとする。
- (3) 上記(1)、(2)の提出先は、「紀要」編集委員会とする。

第4条（原稿の種類）

この「紀要」に投稿できる原稿の種類は、次のとおりとする。

種 類	内 容
査 読 論 文	オリジナルな研究成果をまとめたもの（査読付）
論 文	オリジナルな研究成果をまとめたもの
研 究 ノ ー ト	研究の中間報告、覚書及び新しい研究方法についての報告、翻訳
書 評	書籍、文献の批評、紹介
研 究 展 望	それぞれの研究分野の成果をまとめたもの、研究動向を展望したもの
学 部 活 動 記 録	当該年度の学部活動を報告する内容のもの

第5条（執筆要領）

原稿の執筆にあたっては、別に定める「紀要」執筆要領と「査読」要領による。

第6条（補筆と修正）

「紀要」編集委員会は、必要に応じて、著者に補筆や修正を求めることができる。

第7条（原稿の返却）

投稿された原稿は、著者に返却する。

第8条（抜刷り）

著者には抜刷りを50部配布する。

第9条（配布先）

「紀要」の配布先および電子媒体を通じての公開先は、編集委員会が別に定める。なお、「紀要」

は東洋大学学術情報リポジトリに登録され、公開される。

第10条（原稿料など）

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。査読者に対して謝礼を行う。

第11条（改正）

この規定の改正は、国際地域学部教授会の議を経て「紀要」編集委員会が行う。

附則

この規定は平成21年9月3日から施行する。

この規定は平成25年3月8日に改正した。

東洋大学国際地域学部国際地域学科紀要 原稿執筆要領

平成 9 年 6 月 26 日 学科会議了承

1. 使用言語および使用ソフト

使用言語については特に制限はしない。ただし、印刷等に当たり特別の技術その他の事情を有する言語については、事前に編集委員に相談すること。

原稿は原則としてワープロ打ちとする。使用ソフトはウィンドウズ系一太郎または MS ワードとするが、それ以外のソフトを使用するときには事前に編集委員に届け出ること。

2. 執筆者

投稿資格は本学部の専任教員および非常勤講師とするが、共著者がいる場合は氏名の右肩に＊印を付けて示すこととする。

3. 要旨およびキーワード等

原稿の本文が日本語の場合には、英語の表題、著者名、要旨およびキーワードをつけること。原稿の本文が英語またはその他の言語の場合には、各言語の要旨、キーワードの他に、日本語の表題、著者名、要旨およびキーワードをつけること。

4. 本文および脚注・注

本文は原則として横書きとし、英語の場合はダブルスペースで記述する。原稿用紙のサイズは A4 サイズを標準とする。長さは日本語の場合は A4 用紙 30 枚を超えない程度とする（いずれの場合も図表を含むものとする）。他の言語の場合もこれらに準ずる。以上の内容に依りがたい時は編集委員と協議して決めることとする。

脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは当該ページの下部に記入する。各章毎、あるいは本文末に注をまとめる場合も、注番号は当該箇所の右肩に一連番号で示すこととする。

5. 参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。

(1) 和文の参考文献（翻訳を含む）の場合

1) 雑誌

著者名、表題、雑誌名、巻数（号数）、（刊行された西暦年）

2) 単行本

著者名、書名、発行所、ページ数（号数）、（発行された西暦年）

3) 編著書の中の 1 章またはシリーズの中の 1 巻

著者名、章名、編者（または監修者）名、書名、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）、または著者名、書名、編者（または監修者）名、シリーズ名、第 XX 巻、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）

4) その他の参考文献については、上記 1)、2)、3) に準ずる。

(2) 欧文等の参考文献の場合

上記(1)に準ずる。ただし、書名などについては、主な言語(Word)、固有名詞などは大文字で書き始めること。

6. 図表

- ① 図は著者の作成したものをそのまま印刷するので、黒インクで浄書(トレース)すること(ワープロ印刷でも可)。トレース等が困難な場合にはトレース料は自己負担とする。
- ② 図は、なるべく白紙に黒インクで大きめに書くこと。また、各図は一枚毎に別々の用紙に書くこと。
- ③ 図中の文字数等は写植されるので、正確に書くこと。大文字と小文字、イタリック体、ゴシック体などの違いにも注意すること。
- ④ 図(写真を含む)および表には必ず名称をつけること。
- ⑤ 図表の番号は、それぞれが本文に現れる順にしたがって、通し番号でつけること。また、本文中の各図表の挿入箇所は明確に指示すること。
- ⑥ 各図表の作成に使用した資料あるいは文献は、必ず注として明記すること。

7. 原稿の提出

原稿は本文のハードコピー1部およびFDに収録したもの(ワープロのフォーマット形式およびテキスト型式の両方)で編集可能なものに、それぞれ一枚ずつ別々の用紙に作成した図表をつけて提出するものとする。

東洋大学国際地域学部紀要編集委員会

委員 佐藤 郁

中島 晶子

藤 稿 亜矢子

国際地域学研究 第 19 号

平成 28 年 3 月 28 日発行

編集・発行 東洋大学国際地域学部
〒 112-8606
東京都文京区白山 5-28-20
Tel (03) 3945-8562

印刷 蔦友印刷株式会社
〒 113-0001
東京都文京区白山 1-13-8
